

道徳のまち笠松では、“かさまつ いいね”写真を募集しています。(12月15日まで)

今年度で第4回目となる“かさまつ いいね”写真展ですが、回を重ねるにつれて、応募作品数が増えてきました。また、心に響く写真や、心の温まる写真が多くなり、この写真展の趣旨をしっかりとふまえた作品となっています。

### 応募要項

- ①写真の大きさは、A4サイズ以下なら自由です。
- ②笠松町内で撮影した写真なら、撮影時期は問いません。昔の笠松の様子を写した、懐かしい写真でもかまいません。
- ③カメラで撮ったものだけではなく、携帯電話やスマートフォンで撮った写真も応募できます。(白い紙に印刷してください。)
- ④応募用紙にコメントを記入し、作品のアピールができます。

さて、昨年度は122点の応募がありましたが、どんなタイトルや内容の写真が応募されたのでしょうか?タイトルと添付のコメントを紹介します。

### ◆作品タイトル「ラストスパート」



コメント「Eボート大会。ゴールを目前にして、最後の力走です。」

笠松町以外にお住まいの方も参加できます。多数のご応募をお待ちしています。

【問 合 先】教育文化課

## うたれ坊①

今からおよそ一五〇年

前、ある夏の夕方。

「父上、見守<sup>みまも</sup>っていてください!。見守<sup>みまも</sup>っていてください!。見守<sup>みまも</sup>っていてください!。」

今度こそは、きつと、世<sup>よ</sup>の中のために働<sup>はたら</sup>きます。今度こそは……。」

立ち並<sup>なら</sup>んだ石碑<sup>せきひ</sup>ごしに、とぎれとぎれの声が聞こえてくる。力強い男の声である。ちようどお盆<sup>ぼん</sup>のころで、墓<sup>はか</sup>まいりに来ていた、五平<sup>ごへい</sup>老人<sup>ろうじん</sup>が近づいてみると、今までに見たこともないような大男がしゃがんでいた。「父上、なんとしてもつぐないます。見ていてください。」

れ……。」

合わせた両手<sup>りょうて</sup>、そして額<sup>ひたい</sup>が地につくほど深々と頭を下げていた。

岩<sup>いわ</sup>のような大男。——それは二代目鏡岩<sup>にだいめかがみいわ</sup>——鏡岩<sup>かがみいわ</sup>助三郎<sup>すけさぶろう</sup>であった。江戸相撲<sup>えどすもう</sup>界をならした大関で、このころはすでに引退<sup>いんたい</sup>していた。その助三郎<sup>すけさぶろう</sup>が、笠松<sup>かさまつ</sup>の智晩庵<sup>ちばんあん</sup>を訪れ、父である初代鏡岩<sup>だいがみいわ</sup>のお墓<sup>はか</sup>におまいりしているのであった。

五平<sup>ごへい</sup>のように、この土地にながく住<sup>す</sup>んでいるものたちは、初代鏡岩<sup>しよだいがみいわ</sup>——鏡岩<sup>かがみいわ</sup>浜之助<sup>はまのすけ</sup>のことをよく知っていた。

かさまつの民話「昔むかし」は昭和54年に発行されました。笠松中央公民館・松枝公民館・総合会館でご覧いただけます。